

平成29年度

ボランティアハウスアンケート調査結果

社会福祉法人各務原市社会福祉協議会

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

本調査はボランティアハウスの活動の現状を把握し、次年度から事業見直しの基礎資料とし実施した。

### 2. 調査方法

対 象 平成 29 年度ボランティアハウス代表者 103 名

調査方法 郵送による送付回収

調査期間 平成 30 年 2 月中旬～

### 3. 回収結果

配布数 103 グループ 回答数 64 グループ 回収率 62.14%

### 4. まとめ

#### (1) 担い手及び参加者について

- 今回のアンケート結果で見ると、参加者数の変化は少ないという結果になったが、今年度新たに立ち上がったボランティアハウスが4つあり、6月時点の参加者は増加していると思われる。
- 参加者募集の手段は、参加者が口コミで友人を誘うことが多い。
- 担い手に関しては、担い手の高齢化、新たな担い手不足を課題に挙げるボランティアハウスが1番多く、若い担い手の発掘をしようとしているが中々難しいのが現状で、担い手に関する課題の解決は難しい。

#### (2) 評判のいいプログラムについて

- 健康体操や出前講座等が好評だったが、おしゃべりや、お茶、食事等の喫茶活動も好評だった。必ずしも体を動かすことや出前講座が良い訳ではなく、参加者のニーズに合わせる事が大切だと思われる。

#### (3) 社協会費 PR のロゴマークについて

- 使っていないボランティアハウスが7割を超えており、ロゴマークの使い方（使う時、使うもの）がわからないという答えが多かった。
- その中で多かった意見が、使い方（使う時、何に使うのか）がわからないや、ロゴマークを貼っても意味が無いのではないかとといった意見だった。また、回覧文書を配布しない為、ロゴマークを使う機会が無いといった意見もあった。

#### (4) ボランティアハウス普及のためのノベルティグッズについて

- ・夏季はうちわ、冬季はカイロ ・ティッシュ（ボックス・ポケット） ・開催日が記入できるカレンダーマグネット等の回答が多かった。
- 上記のようにグッズ提案の回答ではなく、「参加者に配布しても参加者は固定しており、普及には

つながらない」など、物品ではなく、配布方法に工夫が必要ではないかといった意見も見られた。

(5) ボランティアハウス運営で代表者が感じた良い変化について

○高齢者の家族から、「引きこもり防止になって良い」「笑顔が増えた」と意見があった事から、ボランティアハウスが高齢者の居場所づくりになっていることが考えられた。

○参加者の笑顔が増え、ボランティアハウス以外でもあいさつを交わすようになった事から、住民同士の繋がりが密になったと考えられる。

(6) 自由記述について

○参加者、参加者家族から喜びや感謝の言葉があり、それを受け止める運営者は喜びを感じ、良いサイクルが出来上がっているのではないか。

○高齢者だけではなく、こどもが参加しているボランティアハウスもあり、多世代が交流できる場を目指してもいいかもしれない。

○参加者が運営を手伝ってくださるようになったボランティアハウスもあり、参加者と運営者が一緒になって楽しむことは、ボランティアハウスが目指す姿なのかもしれない。

## 5. 今後の検討事項

(1) 担い手について

担い手不足や、高齢化が問題と解答される代表者が多く、上手に担い手交代しなければ、ボランティアハウスが減少する可能性がある。円滑な代表者交代ができるよう検討が必要である。

(2) ボランティアハウス周知について

今までボランティアハウス周知のためのノベルティグッズを配布してきたが、活動を知ってもらいたい人よりも、既参加者の手に渡ることが多く、中々周知が上手くいっていない現状がある。今後はより多くの人に渡る配布方法の検討が必要である。

(3) 助成金について

開催1回につき助成金額が決まっており、参加人数が大幅に増加した際の助成額や、2回目の備品助成時期も検討が必要である。

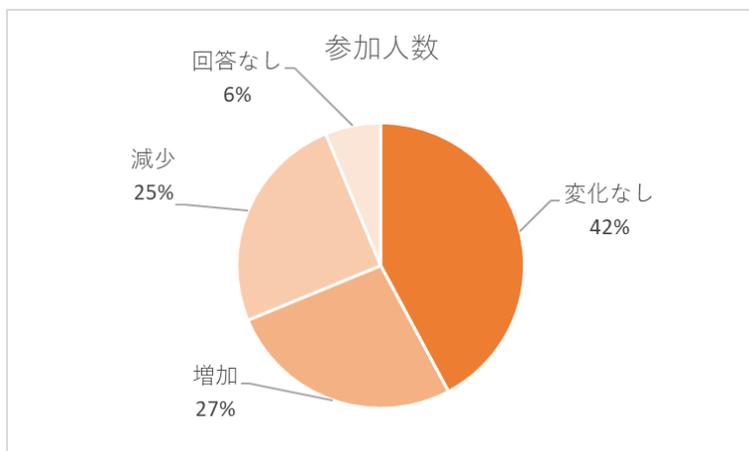
(以下、アンケート結果データを参照。なお自由記述については記載統一のため、一部に加筆、修正を加える)

1. ボランティアハウスの参加人数は昨年と比べ変化がありますか。

参加者の増加・減少数はほぼ同じで、全体を見ると人数変化は少ないのではないかと。

【増加と答えたグループの共通点】

- ・チラシには活動の様子を写真で載せている
- ・参加者が誘いたいと思う人物に声をかけ誘っている



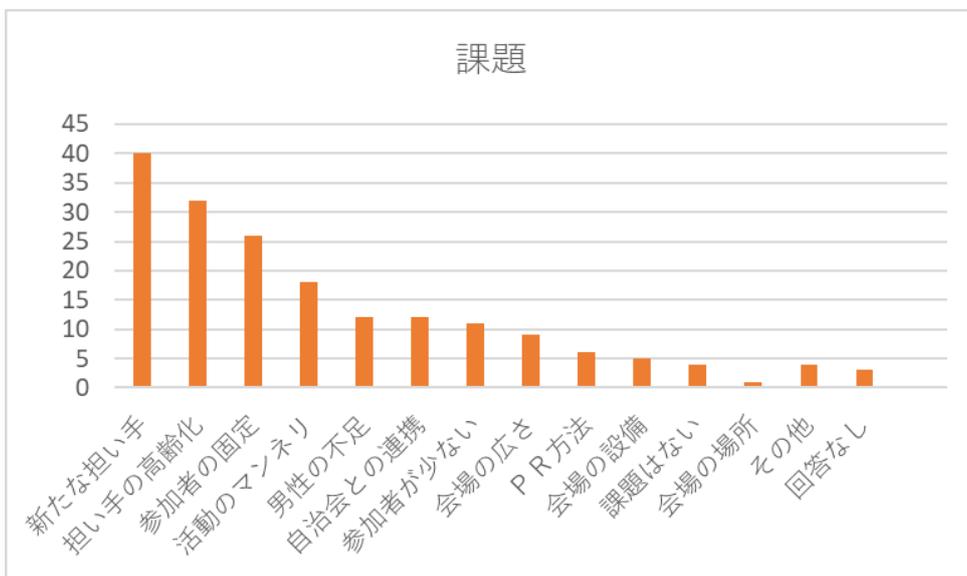
| 参加人数 |    |
|------|----|
| 変化なし | 27 |
| 増加   | 17 |
| 減少   | 16 |
| 回答なし | 4  |

2. ボランティアハウスを運営するうえで負担となっていることはありますか。(自由記述)

- ・ボランティアが高齢化していること
- ・新たな人材の確保 (参加者、ボランティア)
- ・会場の設営 (机やイスが重い)
- ・男性のボランティアが少ない
- ・若い人材の確保ができない (参加者、ボランティア)
- ・提出書類が複雑で手間がかかる
- ・テーマがマンネリ化してしまうが、新たな案が出ない
- ・年間活動計画の策定
- ・利用者は増加したが、ボランティアが増えず負担が大きくなっている
- ・一般宅、自宅を利用しているが、水道代、光熱費を明確に区別することができず計算できない

3. ボランティアハウスを運営する上で課題だと感じていることはありますか (複数回答可)

半数以上のグループ代表者が、新たな担い手、担い手の高齢化を選んでおり、担い手の高齢化が進み負担が増加するが、次の担い手に交代できないのが現状がある。

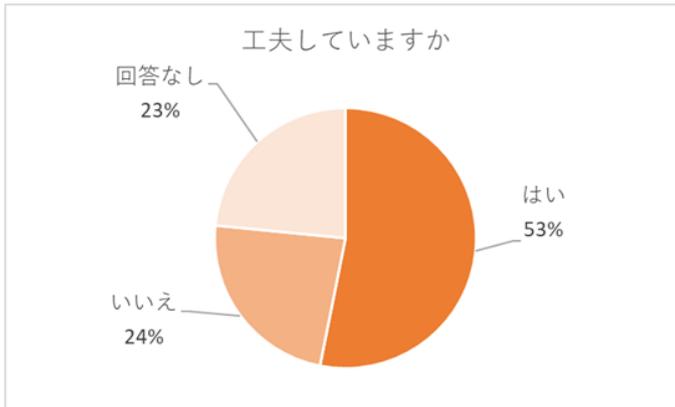


| 課題      |    |
|---------|----|
| 新たな担い手  | 40 |
| 担い手の高齢化 | 32 |
| 参加者の固定  | 26 |
| 活動のマンネリ | 18 |
| 男性の不足   | 12 |
| 自治会との連携 | 12 |
| 参加者が少ない | 11 |
| 会場の広さ   | 9  |
| P R 方法  | 6  |
| 会場の設備   | 5  |
| 課題はない   | 4  |
| 会場の場所   | 1  |
| その他     | 4  |
| 回答なし    | 3  |

### 3・その他の回答

- ・車いすが必要だが購入できない
- ・マイクやスクリーン等の整備がされていない
- ・参加者が多い事はうれしいが、今の会場では狭い
- ・参加人数に対し、助成額が少ない
- ・畳の部屋で開催しており、椅子が欲しいが購入できない
- ・ボランティアハウスは高齢者のイメージが強く 50～60代の方が参加しづらい

### 4・課題解決のために工夫していることはありますか。



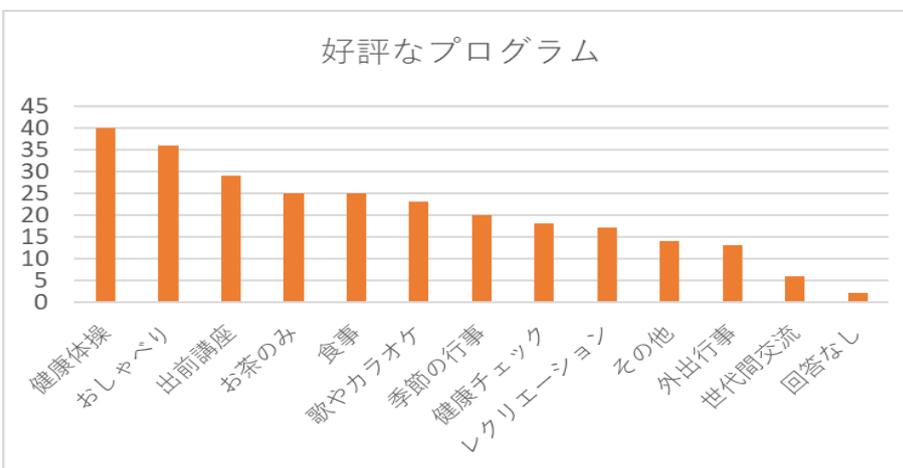
| 工夫   |    |
|------|----|
| はい   | 34 |
| いいえ  | 15 |
| 回答なし | 15 |

#### 4-1 「はい」と回答された方は工夫していることを教えてください。(自由記述)

- ・案内文書に行事の写真を掲載している
- ・近隣ケアの対象者にボランティアハウスの勧誘をしている
- ・自治会総会、役員顔合わせ時にボランティアハウスの紹介
- ・高齢者の集いでPR活動を行っている
- ・近隣ケアグループの代表者に協力していただいている
- ・自治会長に見学してもらっている
- ・本屋に行き折り紙本や、様々なレク本を読み購入する
- ・シニアクラブとの連携
- ・他のボランティアハウスの情報を参考にしている
- ・若い方に声をかけている
- ・メンバーと参加者に友人を誘うよう声をかけている
- ・独居高齢者を把握している民生委員に勧誘をお願いしている

#### 4. 評判の良いプログラムを教えてください。(複数回答可)

健康体操 (62%) おしゃべり (56%) の2つは半数を超える回答があったが、全体的に大きな差は無く、各ボランティアハウスの参加者それぞれに評判の良い活動が違うことがわかる。



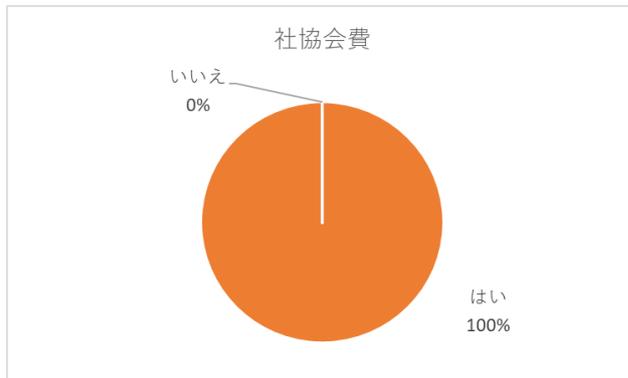
| 好評なプログラム |    |
|----------|----|
| 健康体操     | 40 |
| おしゃべり    | 36 |
| 出前講座     | 29 |
| お茶のみ     | 25 |
| 食事       | 25 |
| 歌やカラオケ   | 23 |
| 季節の行事    | 20 |
| 健康チェック   | 18 |
| レク       | 17 |
| その他      | 14 |
| 外出行事     | 13 |
| 世代間交流    | 6  |
| 回答なし     | 2  |

## 5. その他回答

- ・雑学を学びあう
- ・押し花
- ・1芸ボランティア
- ・楽器演奏
- ・BBQ
- ・自衛隊基地見学
- ・大正琴
- ・ボウリング
- ・小物づくり
- ・旅行
- ・市内史跡巡り
- ・3B体操
- ・輪投げ
- ・簡単調理実習
- ・作品展
- ・出前講座
- ・詩舞
- ・脳トレゲーム
- ・ヤクルト腸内体操
- ・経大亭勝笑一座の爆笑演芸会

## 6. ボランティアハウスの運営助成費は社協会費が充てられていることをご存知ですか。

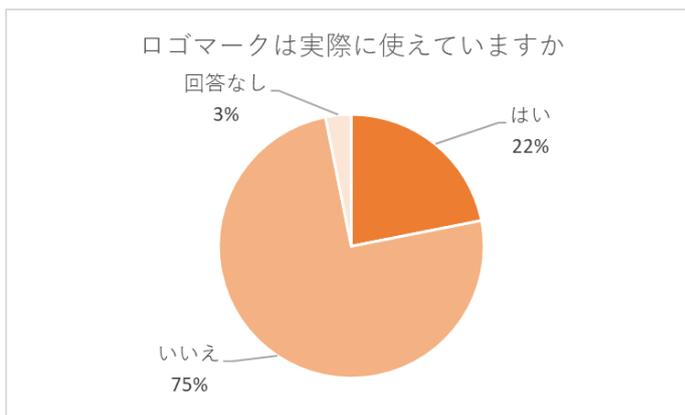
全ての代表者様にボランティアハウスの運営助成費に社協会費が充てられていることをご理解いただけている。



| 社協会費 |    |
|------|----|
| はい   | 64 |
| いいえ  | 0  |

## 7. ロゴマークは実際に使えていますか。

7割の方がロゴマークを使えていないと回答されており、理由として「いつ使えばいいのかわからない」「使い方がわからない」等の意見が多かった。



| ロゴマーク |    |
|-------|----|
| はい    | 14 |
| いいえ   | 48 |
| 回答なし  | 2  |

### 【自由意見】 「はい」と答えた方

- ・回覧文書に貼っています
- ・今のものより色彩よく目立つ色の方がいい
- ・社協のPRによい
- ・1周年記念日に社協職員のあいさつがあり、参加者に社協との関わりを理解を得た

### 【自由意見】 「いいえ」と答えた方

- ・書類配布の機会がない
- ・書類を配布しない
- ・いつ使うのかわからない
- ・何に貼るのかわからない
- ・これからは使っていこうと思う
- ・今後は回覧板に貼る

8. ロゴマークを使い始めてから変化はありますか。(自由記述)

- ・あまりない
- ・常連の参加者は気にしていない
- ・興味は持ってもらえたが変化はない
- ・今はまだないが、継続使用することで関心を持ってもらえるのではないかと

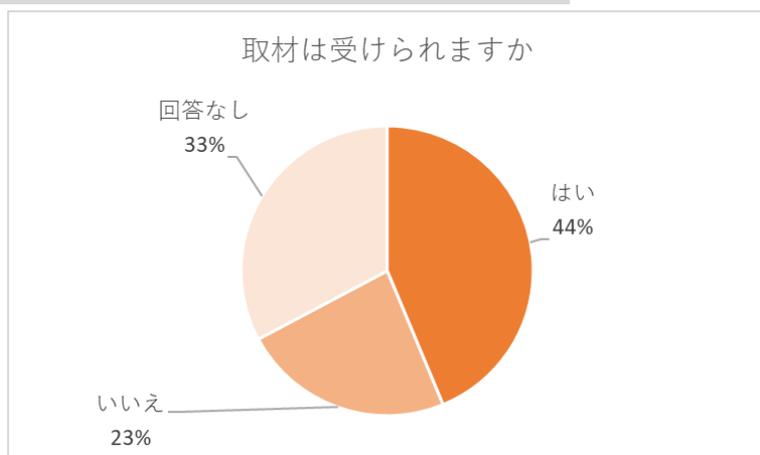
9. ボランティアハウスを普及するためにあると良いノベルティグッズはありますか。(自由記述)

- ・夏季はうちわ、冬季はカイロ
- ・ティッシュペーパー
- ・参加日に印をつけられるカレンダー
- ・ポケットティッシュ
- ・マグネットカレンダー
- ・マグネットシート
- ・社協及び包括のカルタ
- ・ボールペン
- ・ティッシュボックスカバー

【ノベルティグッズに関する意見】

- ・参加者には配布する機会が多いが、すでに参加している人ばかりに渡っても仕方ないのではないかと。
- ・健康をテーマにすると多くの人に関心を持っていただけるのではないかと。
- ・物品の配布による広報活動は、普及にはつながらないと思う。
- ・クリアファイルを配布したが、参加者が固定しており、普及にはつながらっていない。
- ・物よりも、どうしたら一般の方の手に渡ることか考えなければならない。
- ・物品の配布は必要無いと思う。

10. メディアの取材があれば受けられますか。



| 取材   |    |
|------|----|
| はい   | 28 |
| いいえ  | 15 |
| 回答なし | 21 |

【いつ取材に来てほしいですか】 はいの回答者より

- ・行事のある時ならいつでも良い
- ・いつでも良い

【その他】

- ・何度も受けている
- ・参加者に確認してから考える

11. ボランティアハウスを運営する中で代表者の方が感じられる良い変化はありましたか。

- ・参加者の皆様が健康について非常に高い関心を持っている。
- ・皆さん帰りに「本当に楽しかった、また次を楽しみにしている」と喜んで帰途につく。
- ・1人暮らしの方から「おしゃべりの場がうれしい」と言われた。
- ・バスツアーの助成金制度が廃止となりましたが、私たちハウスは、多数の方々から実費でも良いので続けてほしいと強い要望があったので、28年度は知多電力館、29年度は京都御所へと見聞し、親睦を重ねている。
- ・子供たちが成長して近所の人と話す機会がなかったが、年4回の少しの時間でも話ができるようになった。

った事がうれしい。

- ・他市から娘の家に転居し初めは不安そうだったが、3ヶ月経過し表情も明るくなり笑顔が増えた。
- ・ボランティアの方で（84歳）いつまでもボランティアで参加すると張り切っている。
- ・日中1人暮らしの高齢者の引きこもり防止になっていると、家族より言われた。
- ・独居会員や家族が遠方でお孫さんとかかわりが少ない会員にとって、園児との触れ合いは、笑顔が満ち溢れ、楽しい時間になっている。
- ・仲間がこの1年の間に認知症になったが、メンバー全員で見守っている。
- ・転入者の方が「こんな楽しい会があるなんて素敵ですね」と参加するようになった。
- ・軽度認知症の方が付き添いなしで参加できるようになった。
- ・町で会った時に向こうから話しかけてくださる事がうれしい。
- ・仲間同士が集う度に密になっているような気がする。
- ・利用者から「夫が認知症にならないようにここに連れてきたい」と言われた。
- ・最近親が引きこもりがちになっているので、誘ってほしいと娘から要望があり対応できた。
- ・談笑の機会が増えることで表情が穏やかになり、話し上手になった。
- ・近所の高齢者の情報交換ができ、地域の情報が集まるようになった。
- ・地域包括支援センターの体操講座を受けてから、男性参加者が増加した。
- ・介護者が「ボランタリーハウスに参加すると気持ちが明るくなる」と話された。
- ・積極的な友人に誘われ、引きこもりがちだった人の表情が豊かになり、元気になってきた例があったので自由に参加できる催しは大切だと思った。

## 12. 自由記述

### 【良かったこと】

- ・室内でおしゃべりの好きな方、屋外で体を動かすのが好きな方等見えますので、意見を聞きながら運営していきたい。
- ・私たちのボランタリーハウスも昨年11月で18年目に入り、高齢者が高齢者を支える社会を実感している。
- ・若い世代にバトンを渡せることを願っている。利用者は口コミで増えているが、食事の対応が大変。
- ・保育園から、毎月の園児と祖父母との交流の機会がもたれている事に、親さんの方から喜ばれていると申され、会としても嬉しくありがたく思っている。毎年3月の年長児との「お別れ会」で園児が私たちボランティアとの別れを悲しみ、涙する姿に心打たれ、ボランティア冥利に尽きると痛感した。
- ・いつもティータイムを設けているが、最近は健康生活への関心が高まっている。
- ・社協の支援や助言のおかげで、皆が楽しい会だと感じていると思う。
- ・歌って踊ってエンジョイさんが好評だったので、今年もやりたい。
- ・事業の企画、資料の印刷、外部講師の出演依頼等、全面的なバックアップがありがたい。
- ・使命とし、水曜日はボランティアデイと決め行動しており、自分自身が楽しみ、やりがいがある事に喜びを感じている。
- ・参加者の方はもちろん、ボランティアの方も手伝うようになった。

- ・今まであいさつ程度のお付き合いだったが、この年齢になり親しくなれるのがうれしい。
- ・来年度よりボランティアハウス開催の案内文書にロゴマークを加え認知度を高めたい。

#### 【意見】

- ・健康体操をどのようにやれとも言わず、勝手に言い出し、勝手に一部のグループに補助金を支払い始めたことには大いに不満がある。犬山市のポスター（体操指導書）のようなものを配布すべき。
- ・活動事例がたくさんあると参考になる。
- ・40～60代の方が参加できるものになれば、継続できると思う。
- ・旅行中の事故、トラブル等、対処法等指導を願いたい。なお私たちの会としては、年間開催数12回分の1回と考えているので、ボランティアハウス要綱 保険第11条（旧10条）が適用されると認識している。
- ・定年退職をした方を受け入れていきたいが、中々難しい。
- ・体操加算を月1回も対象にしてほしい。
- ・正直疲れてきている。
- ・横着な人はまともに見ないようにしている。
- ・他のハウスと交流したい。
- ・活動助成費が参加人数10人/1回を基準としているが、10人でも40人でも一緒では辛い。
- ・70歳以上を対象にしているため、会員平均年齢80.3 健康体操に全員参加は困難。
- ・ボランティアで運営していくには個人の寄付又は労力のボランティアがなくてはできないので、助成金の増額を希望、申請したい。
- ・感謝状等を条件により配布し、ボランティアハウスの名を皆さんと共有できるようにする。
- ・備品助成を5年に1回にできないか。
- ・現在は民生委員と近隣ケアでボランティアハウスを運営しているが、ボランティアハウスをやることが負担になって近隣ケアのなり手がいない状態のため2か月に1回の開催にした。
- ・年度初めに、担当者が個別に予定表を手渡しする努力はしているが、参加者の増加にはつながらない。担当者も高齢化で内容の見直しにもならず。
- ・ますます高齢化するばかりで、運営するにも大変な負担となっている。
- ・高齢者だけでなく、地域住民の集いにしたい。
- ・「子供は宝」「子供が来ると頭痛がする」と意見が分かれ、苦肉の策で回数を増やした。
- ・ボランティアハウスを始めて9年になり、年1回風祭を開催し、地域の人にハウスのあり方等お話ししているがまだまだ理解が得られない。
- ・社協の助成は1年程で、あとは少しの参加者でも実費でいいと思う。
- ・非常にやりがいはあるが、一般の人の知名度が低いので、あまり協力が得られない。







ボランティアハウス名 \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございます